

# 浜岡原子力発電所における地下構造調査(更なる追加調査)の実施について

当社は、2009年8月11日の駿河湾の地震を踏まえた地下構造調査(追加調査)を実施し、駿河湾の地震で5号機の揺れが大きかった主要因と考えられる低速度層を、5号機東側の地下浅部に確認しました。今後の新耐震指針に照らした耐震安全性評価の審議にあたり、以下のとおり、更なる追加調査を実施します。

## 1 調査目的

低速度層に関する知見を新耐震指針に照らした耐震安全性評価に反映させる一環として、低速度層の分布形状等を詳細に把握するとともに、あわせて、5号機以外の号機周辺についても詳細な速度構造を確認することを目的に、調査を実施します。

## 2 調査内容

調査では、以下の項目を実施します。

### ① オフセット VSP 調査

既存ボーリング孔および新しくボーリング孔を掘削し、複数の断面において速度構造を調査し、低速度層の分布形状を把握するとともに、その他号機周辺についても詳細な速度構造を確認します。

- ・地上から起振車で発振 → ボーリング孔内受振:8 測線

### ② ボーリング調査

既往オフセット VSP 調査によって確認された低速度層を直接確認し、PS 検層<sup>※1</sup>等により地質的な特徴と物性値の関連等を把握するとともに、その他号機周辺についても速度構造を確認します。

- ・大深度ボーリング調査(深度 500m~700m):6 本
- ・ボーリング調査(深度 350m 程度):10 本程度

### ③ 海域弾性波探査

発電所前面の海岸付近について、速度構造を確認します。

- ・海上からエアガン発振 → 陸上ボーリング孔内受振:7 測線程度
- ・海上からエアガン発振 → 海底に設置したバイケーブル受振:3 測線

\* 調査測線や数量は、調査の進捗や関係各所との調整等により追加・変更となる可能性があります。  
 \* 2008年以降実施している地下構造調査における調査項目である地震観測については、敷地内および敷地外において継続的に実施しております。

## 3 調査期間(予定)

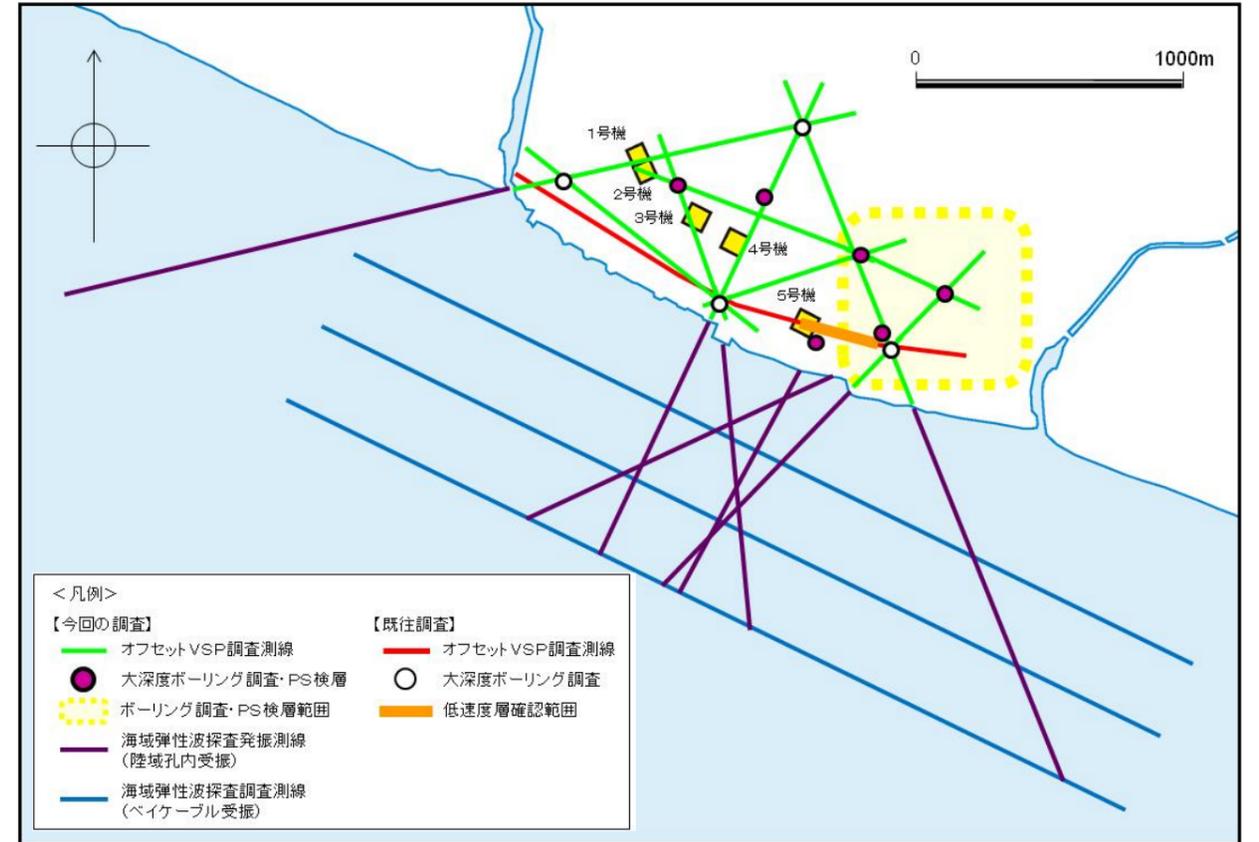
2010年8月~2010年度下期

	2010年度	
	上期	下期
① オフセット VSP 調査	[調査実施]	
② ボーリング調査	[調査実施]	
③ 海域弾性波探査	[調査実施]	

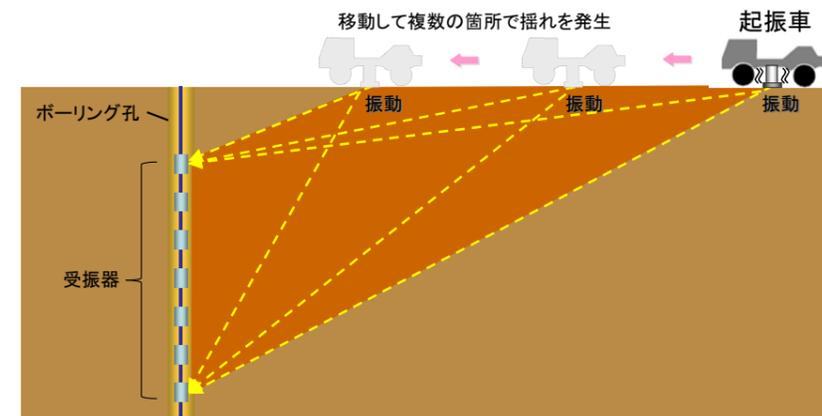
\* 調査期間は、調査の進捗や関係各所との調整等により変更となる可能性があります。

※1 PS 検層とは、地盤の弾性波に関する速度測定方法のことで、ボーリング孔内に振動を検知する受振器を設置し、地上においた起振装置等により弾性波(P波・S波)を発生させ、孔内の受振器で測定します。これにより、地盤内を伝播する弾性波の深さ方向の速度分布を確認します。

【調査位置】



<オフセット VSP 調査(陸域)の方法(イメージ)>



\* オフセット VSP (Vertical Seismic Profiling) 調査とは、起振車等により地表で弾性波(振動)を発生させ、ボーリング孔内の受振器で受振することにより、地下構造を調査する手法のひとつです。起振車等を移動させながら、複数の地点で弾性波を発生させることにより、ボーリング孔から離れた地点の地下構造を知ることができます。

以上